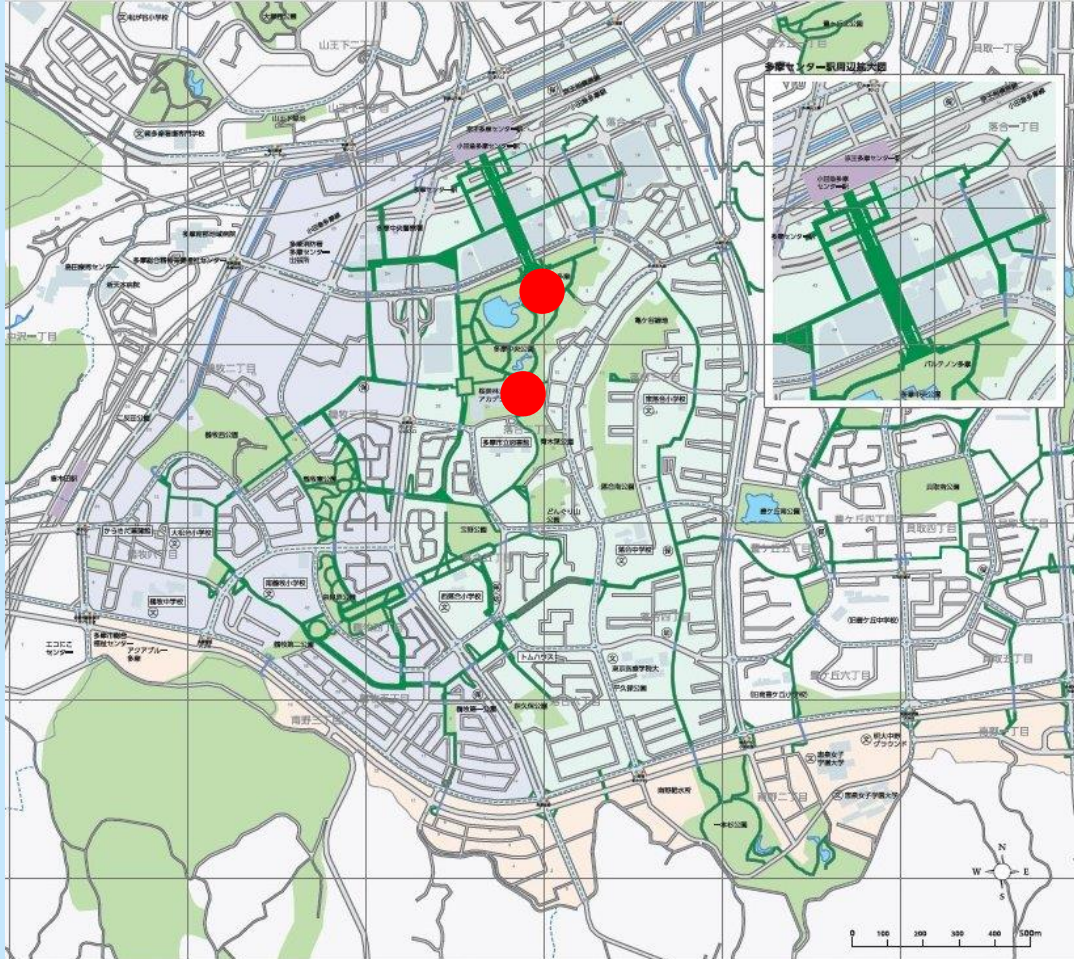
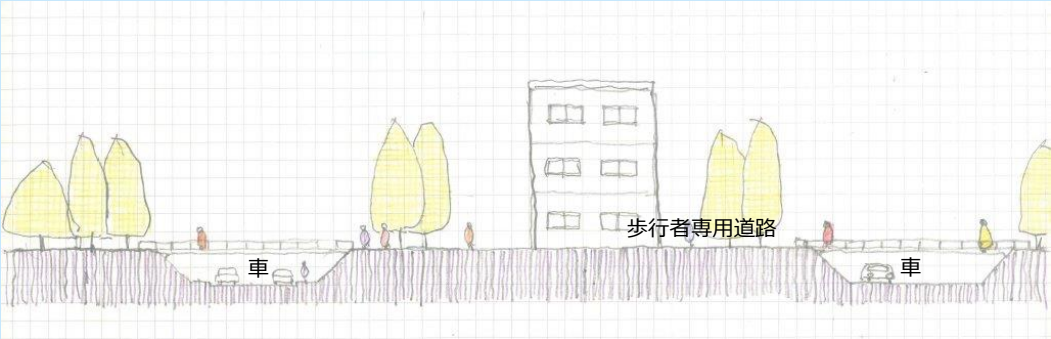
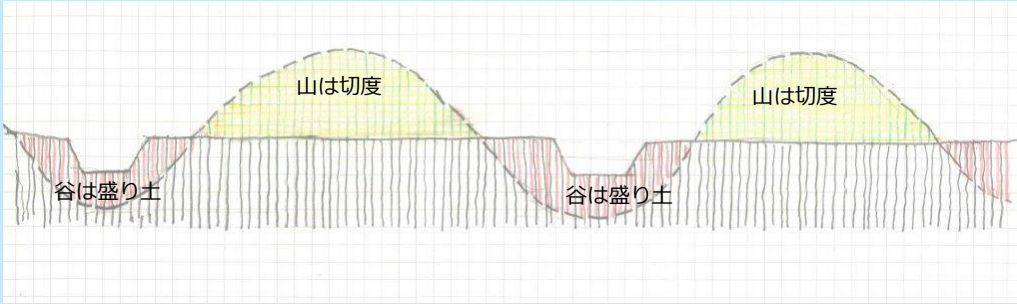


歩車行の分離→住宅地から車と接触しないで駅まで歩いて行ける
公園をつなげる歩行者専用道路ネットワークの整備（総延長40Km）



多摩ニュータウンの開発（歩行者専用道路の整備）

丘陵地帯の尾根部分をカットして住宅地に
丘陵地帯の谷筋部分（谷戸）を盛土して車道に



多摩ニュータウンの開発（多摩市内）

のんびりとした公園整備

ゆったりとした配置の団地
緑に囲まれた傾斜屋根の団地へ



中央公園



敷地委一杯、三軒茶のマンション 容積200%



初期のマッチ箱団地 容積率30%



モミジバフー通り



後期の傾斜屋根団地 容積率70%

多摩ニュータウンの強み

公園・緑地などのみどり環境が整備

公園整備は終了している

歩行者専用道路網も緑化されている

一人当たりの公園面積率が高い⇒16㎡/人・区部4.5㎡/人

緑環境が整っている⇒緑被率43.6%・区部16%

セミの羽化など自然観察会が気軽に行われている

のんびりとした子育て環境が整っている

27年度都建設局都市公園調査による



歩行者専用道路

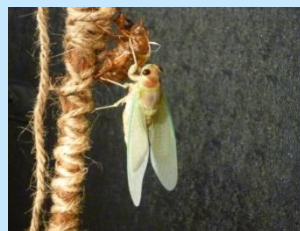
多摩ニュータウンの魅力



中央公園



荻窪公園



セミの羽化観察

多摩ニュータウンの強み

インフラの整備

道路・上下水道の整備はほぼ終了
ゆとりのある道路幅員（道路率15%）
イベント開催しやすい環境が整備
被災時に弱い木造密集地域はない
東西方向への鉄道が3本整備
南北方向へモノレール整備
→被災時に適応しやすい

多摩ニュータウンの魅力



多摩市総合計画・基本構想

みんなが笑顔

いのちにぎわうまち 多摩

持続可能なまちづくり

多世代のひとが、多様なライフスタイルの人が、とにくらすまち。

年齢を重ねても、障がいがあっても、子どもを持っていても、さまざまな立場の市民の皆さんが、地域で健やかに住み続けられ、はたらせるまち多摩

都市計画上の課題（私見）

人口ピラミッド年齢構成の全国平準化

→流動化

ライフスタイルにあわせたすまい

→整備誘導

ユニバーサルデザインの再構築

→再整備

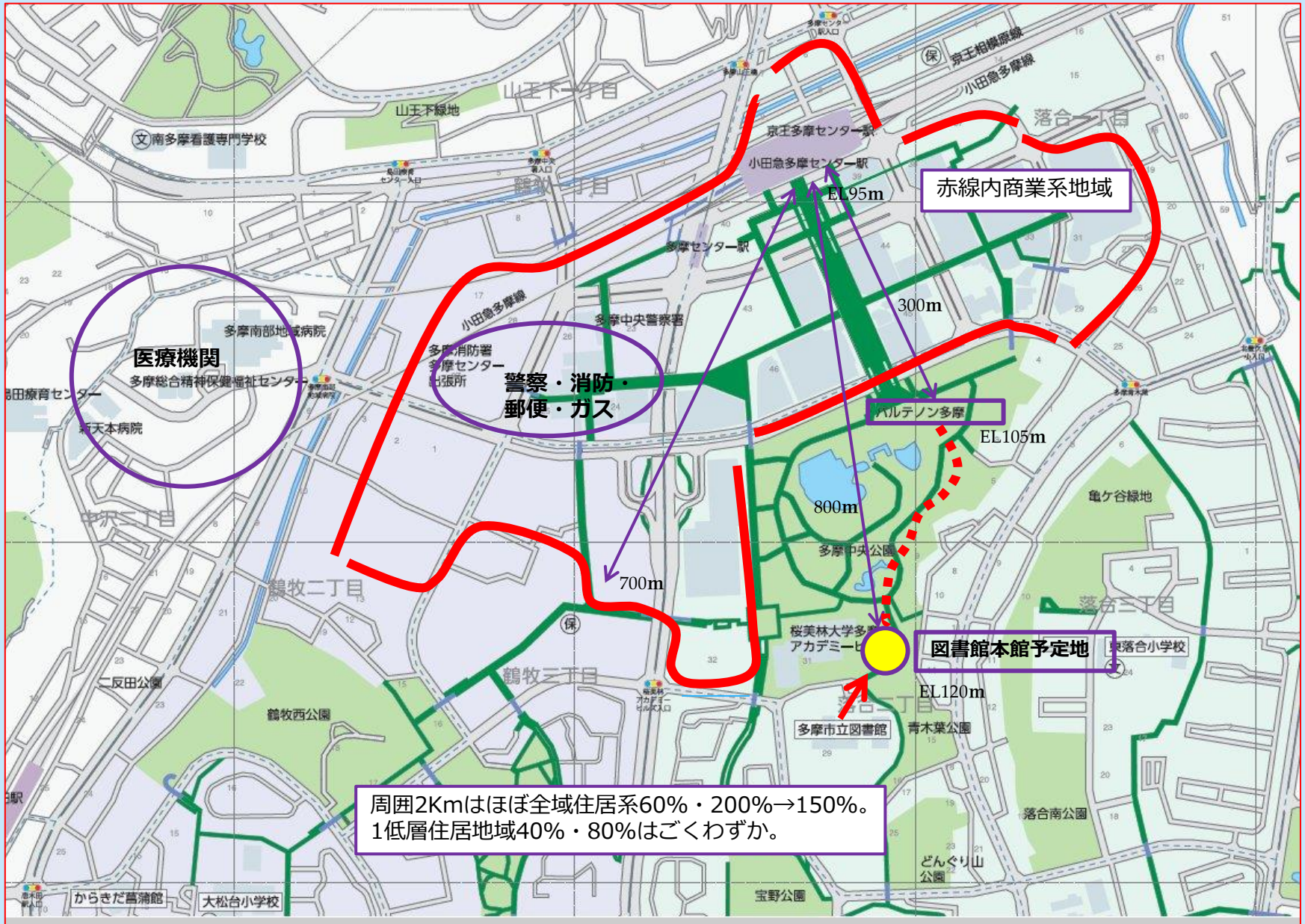
インフラ・都市施設の更新

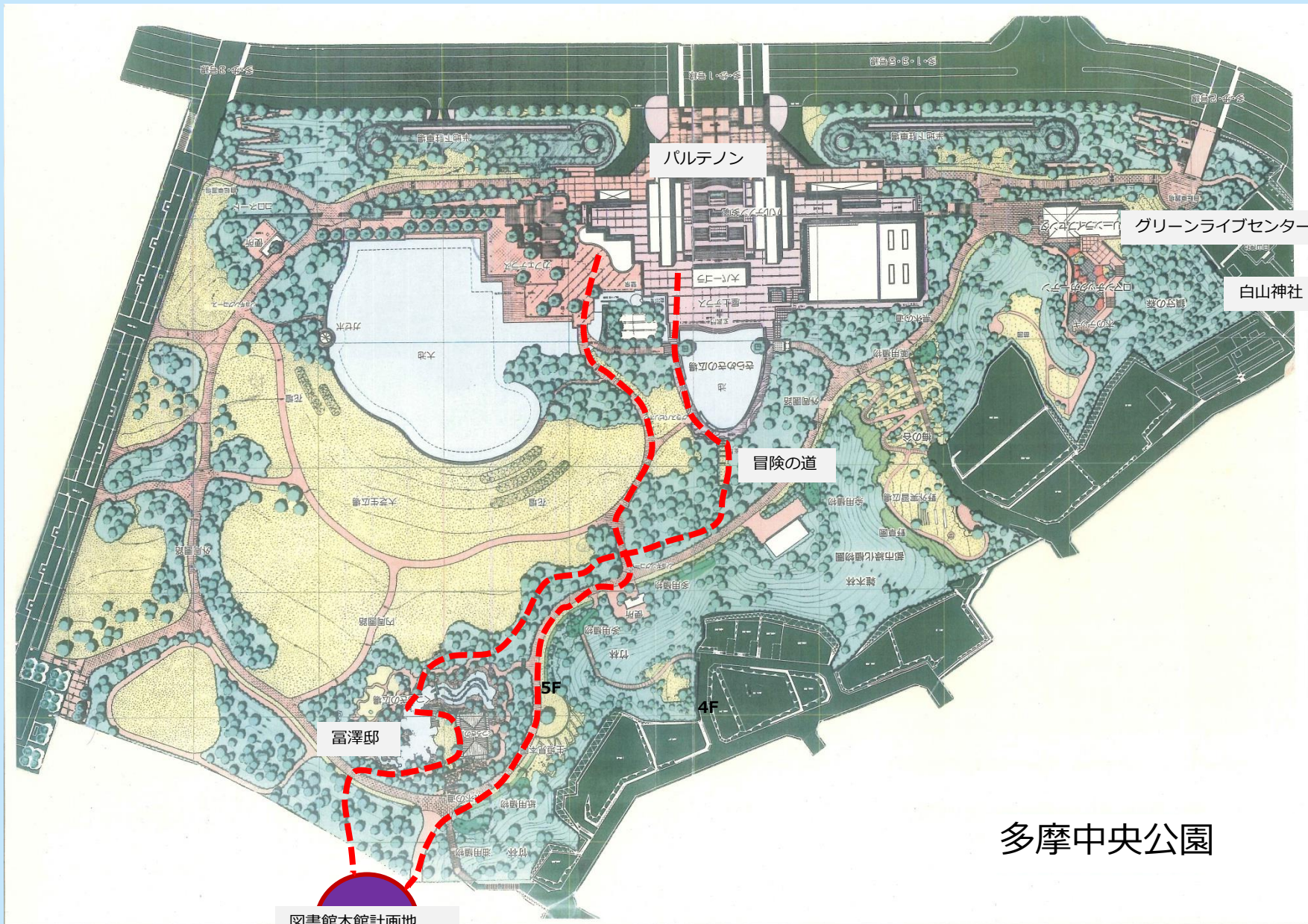
→再整備

ゾーン型（城壁型）から沿道型へ

→再計画

多摩センター駅周辺

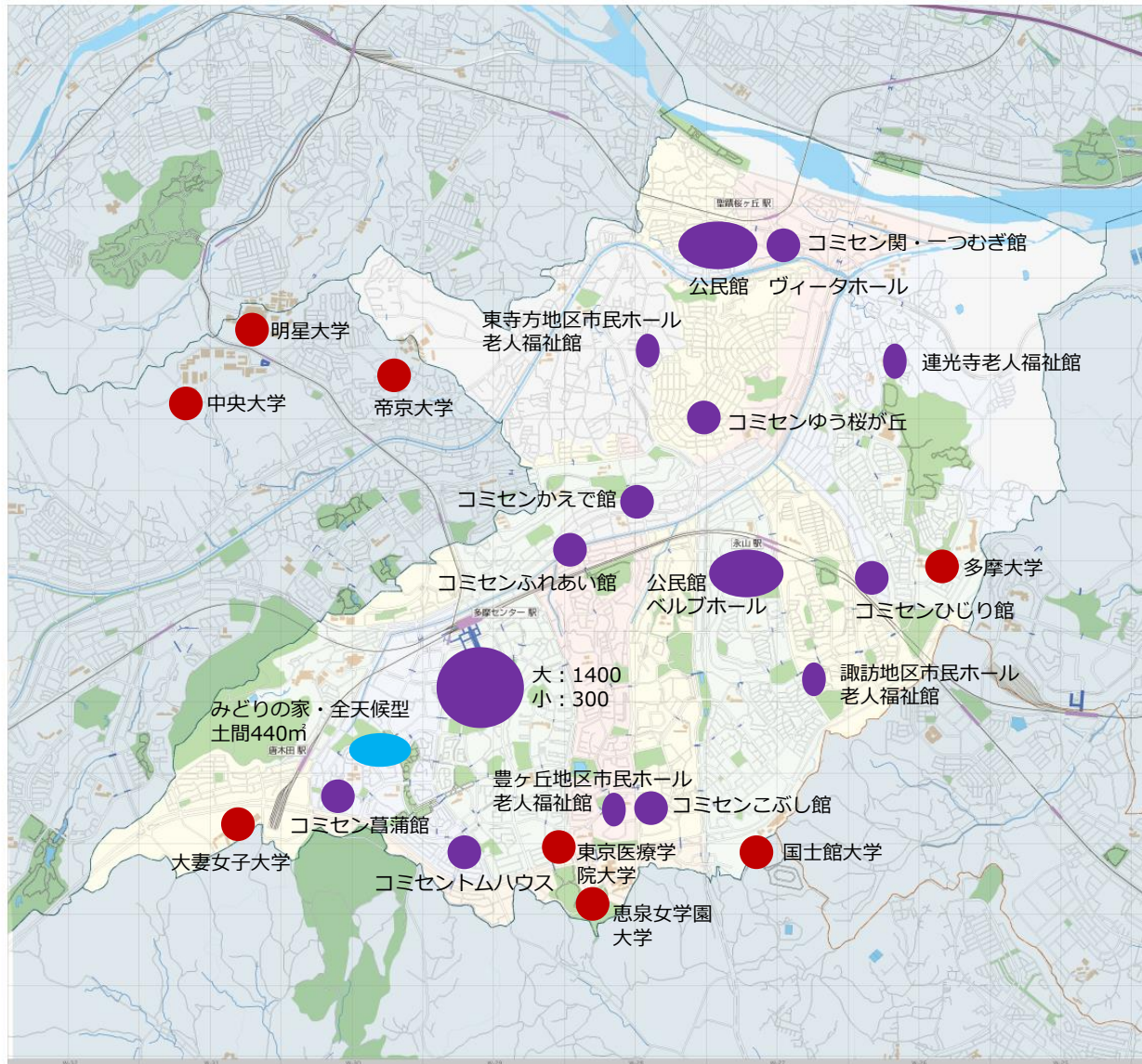




図書館本館計画地

多摩中央公園

多摩市内の集会所・ホール 大学



公民館 ヴィータホール
250人平土間可動椅子



公民館 ヘルブホール
198人平土間可動椅子



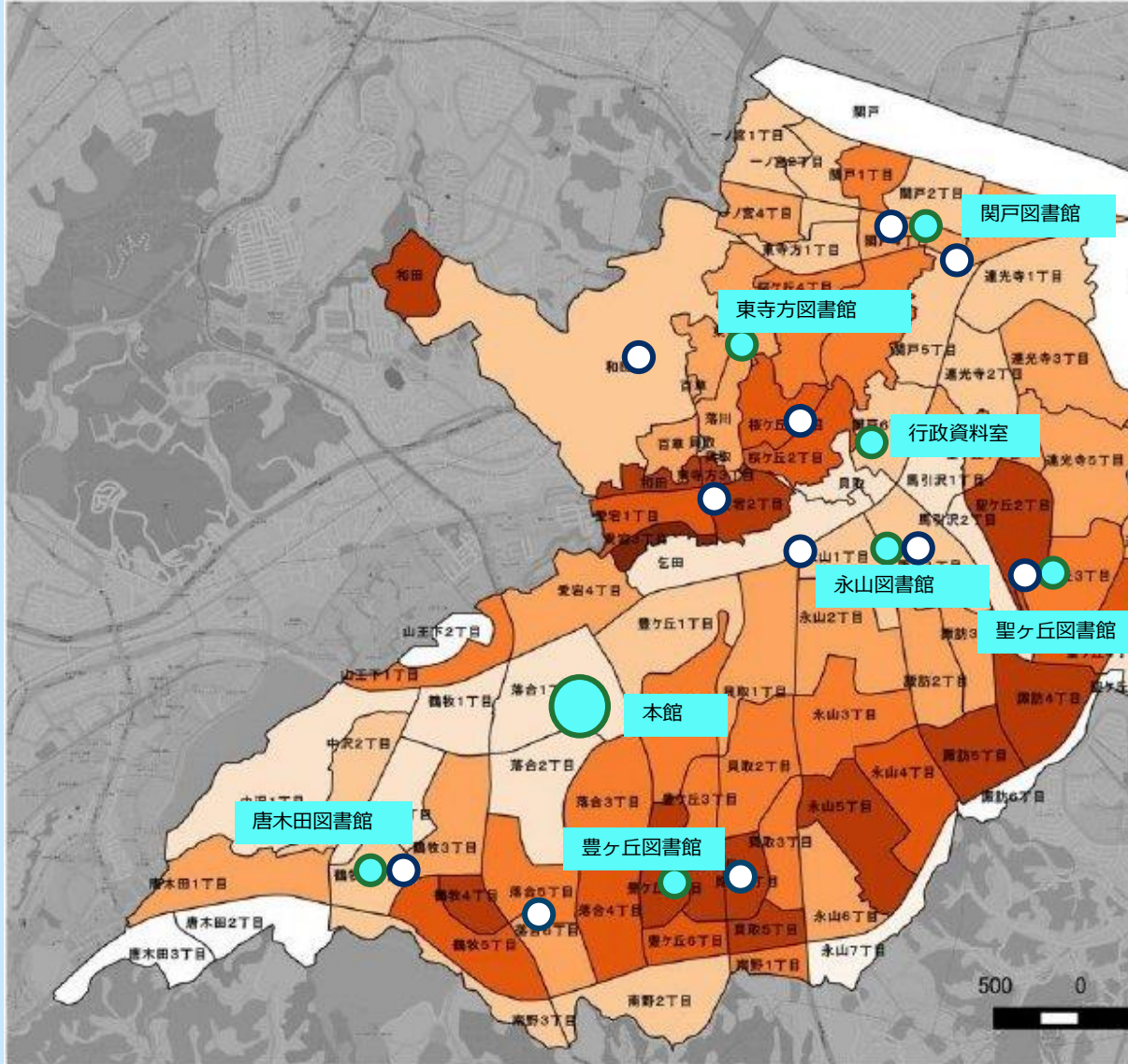
みどりの家・全天候型土間440㎡

● 老人福祉館24畳～32畳、地区市民ホール：60人 ● コミセン：100人 ● 公民館200～250人

● 大学

多摩市内の図書館・コミュニティ施設 高齢化地域

多摩ニュータウンの現況



○ 図書館

○ コミセン・公民館



図書館本館計画・パルテノン改修計画について

総合計画等の各種行政計画に参加の立場で
都市計画審議会委員 尾中信夫

みんなが笑顔
いのちにぎわうまち 多摩

持続可能なまち

生命力を持つまち、20年後30年後を見据えたまち・図書館・パルテノン
年齢を重ねた人も、障害を持った人も、子供たちも加わってにぎわう図書館・パルテノン

多摩の魅力を広げる

公園散策路や歩行者専用道路網の中心となる図書館・パルテノン
育てたみどりと一体化した図書館・パルテノン

のんびりとした子育て環境を次世代へ

子どもたちが楽しめる図書館・パルテノン
中央公園でくつろいでいる若い家族が気軽に寄れる図書館・パルテノン